

- 問1 桓武天皇から命を受け、蝦夷を服属させるために派遣された武将は誰？
- 問2 794年に桓武天皇が建設し、その後長きにわたって日本の中心となった新しい都を何という？
- 問3 「この世をば わが世とぞ思う 望月の 欠けたることも 無しと思えば」という歌を詠み、摂関政治の全盛期を築いた人物は誰？
- 問4 平安時代末期、東北地方を拠点として独自の勢力を築いた一族を何という？
- 問5 平安時代に地方政治の乱れに乗じて力をつけ、やがて中央政治にも影響を与えた存在を何という？
- 問6 摂関政治の全盛期に「望月の歌」を詠み、栄華を極めた人物は誰？
- 問7 平安時代初期まで、日本が中国（唐）へ文化や制度を学ぶために派遣した使節を何という？
- 問8 1086年に天皇の位を譲った後、上皇として御所外から政治の実権を握った人物は誰？
- 問9 国風文化の発展を支えた、漢字を簡略化して作られた文字を何という？
- 問10 遣唐使の停止以降、中国文化を日本の風土に合わせて日本独自に発展させた文化を何という？
- 問11 平安時代の貴族文化において、仏教の教えを絵画や工芸品などを用いて表現したものを何という？
- 問12 平安時代後期に貴族の間で流行した、死後に阿弥陀如来の助けを借りて極楽浄土へ生まれ変わることを願う考え方を何という？
- 問13 紀貫之らが中心となって編纂した、日本で最初の勅撰和歌集を何という？
- 問14 平安時代初期、朝廷の支配が及びにくかった日本の北東部地域を何という？
- 問15 空海が高野山に建立した、真言宗の総本山として知られる寺院は何？
- 問16 平安時代末期に厳島神社の社殿を整備した武士は誰？
- 問17 平安時代初期に、唐から真言宗を持ち帰り、金剛峯寺を建立した僧は誰？
- 問18 天皇が幼少の時に代わって政治を行い、天皇を補佐する役割を持つ官職を何という？
- 問19 939年、関東地方を拠点として朝廷に反旗をひるがえした武士は誰？
- 問20 平安時代後期に藤原氏の栄華の象徴として平等院鳳凰堂を建立した、当時の政治の実権を握っていた人物は誰？
- 問21 院政を行うために、天皇の住む御所の外に設けられた上皇の執務機関を何という？
- 問22 平安時代中期、天皇が幼いときに補佐する役職を何という？
- 問23 平安時代初期に唐から天台宗を伝え、比叡山に延暦寺を開いた人物は誰？

答え合わせ・解説

問1	答え 坂上田村麻呂	坂上田村麻呂は、桓武天皇により「征夷大將軍」に任命され、大規模な軍を率いて東北へ向かいました。彼は蝦夷の指導者であった阿豆流丸を降伏させ、朝廷の支配圏を現在の岩手県あたりまで拡大させました。
問2	答え 平安京	平安京は、現在の京都盆地に造営されました。中国の長安にならって整然と区画整理された都市であり、中央には天皇の住む御所、その南には広大なメインストリートである朱雀大路が通っていました。遷都は794年に行われ、以後明治維新まで長きにわたって日本の政治・文化の中心地となりました。
問3	答え 藤原道長	藤原道長は、四人の娘を次々と天皇の后とすることで、揺るぎない地位を築きました。自身が摂政や関白になることもありましたが、それ以上に天皇の外戚という立場で朝廷を掌握しました。彼が詠んだ歌は、自身の権勢が満月のように欠けるところがないと誇る自信に満ちたものです。
問4	答え 奥州藤原氏	奥州藤原氏は、豊かな金の産出や馬の取引、大陸との貿易などを通じて莫大な富を築きました。この富を背景に、平泉の地に壮大な寺院群を建立し、仏教文化を花開かせました。
問5	答え 武士	武士は、自らの土地や一族の生活を守るために武装した、地方の豪族や有力者たちです。彼らは互いに団結して武士団を形成し、朝廷の命を受けて反乱の鎮圧などを担うことで、次第に力を蓄えていきました。
問6	答え 藤原道長	藤原道長はその摂関政治の頂点に立った人物です。娘の彰子を一条天皇の中宮にするなど、一族の女性を権力の中核に送り込みました。「この世をば…」で始まる望月の歌は、彼が自身の権力の絶頂期を月になぞらえて詠んだものとして非常に有名です。
問7	答え 遣唐使	遣唐使は、天皇の命を受けて唐へ派遣された公式の外交使節団です。留学生や僧侶も同行し、帰国して新しい仏教（密教）や学問、技術を日本に持ち帰りました。しかし、894年に菅原道真の建議により停止されるまで、多くの人々が命をかけて海を渡りました。これにより、日本は当時の東アジアの先端文化を吸収し、発展の礎を築くことができました。
問8	答え 白河上皇	白河上皇は1086年に天皇の位を子に譲り、自らは上皇となって政治を執り行いました。これを「院政」といいます。これにより、摂関家ではなく天皇や上皇が権力の中心となりました。
問9	答え かな文字	漢字の草書体を簡略化した「ひらがな」や、漢字の一部をとった「カタカナ」が普及しました。これにより、複雑な漢字を使わずに和歌や日記、物語などを自由に書けるようになり、文学表現の幅が大きく広がりました。
問10	答え 国風文化	国風文化は、仮名の発明による物語文学（源氏物語など）の発展や、寝殿造のような日本独自の建築様式が特徴です。貴族の生活の中で、四季の移ろいや美しさを愛でる優雅な芸術が発展しました。
問11	答え 浄土教美術	浄土教美術は、阿彌陀如来や極楽浄土の華やかな世界を絵画、彫刻、建築に込めた芸術です。平等院鳳凰堂の内部にある華麗な障壁画や、阿彌陀如来坐像などは、当時の最高の職人や芸術家によって作られました。繊細な装飾や美しい色彩は、平安貴族の優雅で洗練された文化を象徴しています。
問12	答え 浄土信仰	浄土信仰は、阿彌陀仏を信じ、その名（南無阿彌陀仏）を唱えれば、死後に極楽浄土へ行くことができるという教えです。当時の貴族たちは、自分の館や寺院の建物に阿彌陀仏を安置し、豪華な飾りつけをすることで、現世に極楽浄土を再現しようとしました。平等院鳳凰堂はその代表例です。
問13	答え 古今和歌集	『古今和歌集』は、紀貫之らが中心となって編纂した、日本で最も古い勅撰（天皇の命令による）和歌集です。当時の洗練された貴族の生活や自然への思いが反映されており、後の文学作品に多大な影響を与えました。仮名文字を用いて書かれたことが特徴です。
問14	答え 東北地方	東北地方には、朝廷の支配に従わない人々が生活しており、朝廷側は彼らを「蝦夷」と呼んで服属させようとしてきました。朝廷は多賀城などの拠点を作り、軍事的に征討を試みましたが、
問15	答え 金剛峯寺	金剛峯寺は、高野山にある真言宗の拠点となる寺院です。空海は嵯峨天皇からこの土地を下賜され、修行道場を築きました。広大な敷地には多くの寺院が立ち並び、宗教都市としての役割も果たしました。金剛峯寺は、真言宗の教えを広める中心地として、また信者たちが祈りを捧げる聖地として長年大切にされてきました。
問16	答え 平清盛	清盛は日宋貿易を積極的に進め、経済的な力を高めました。航海の安全を祈願して、瀬戸内海の厳島神社を厚く信仰し、豪華な社殿を整備しました。平氏の権力は全盛を迎え、一族で朝廷の高位を独占するまでになりました。
問17	答え 空海	空海は唐で密教を学び、帰国後に真言宗を開きました。密教とは、高度な修行と儀式を重んじる仏教の宗派です。彼は嵯峨天皇から高野山を下賜され、そこに金剛峯寺を建立して修行の拠点としました。多くの弟子を育て、学問の面でも大きな足跡を残しました。
問18	答え 摂政	摂政は天皇が幼い間に代わって政務を行い、天皇が成人した後も補佐する役割として「関白」が置かれました。これら一連の政治形態を摂関政治と呼びます。藤原氏は代々この地位を独占し、天皇をしのぐ権力を握りました。
問19	答え 平将門	平将門は、関東の有力者として朝廷の支配に対して反乱を起こしました。勢力を拡大した将門は、自らを「新皇」と名乗り、独立した政権の樹立を目指しました。この乱は、当時の朝廷に大きな衝撃を与えました。
問20	答え 藤原頼通	藤原頼通は、摂政・関白として約50年間政治の実権を握りました。当時、貴族たちの間では自分の財力や権力を誇示しつつ、極楽浄土に往生したいという切実な願いがありました。頼通はそれに応えるように、京都の宇治の地に壮大な平等院鳳凰堂を建立し、阿彌陀如来像を安置させました。
問21	答え 院庁	院庁は、院政における実務的な行政機関であり、上皇の意志を国家政策として実行する役割を持ちました。ここで出される命令は「院宣」と呼ばれ、強い権力を持っていました。組織として整備されることで、摂関政治とは異なる独自の政治体制が確立されました。
問22	答え 摂政	摂政は天皇が幼少の際に代理として政治を行う役職であり、成人後は関白として補佐しました。藤原氏は一族から天皇の后を出すことでこの地位を世襲し、朝廷の政治を思いのままに動かしました。
問23	答え 最澄	最澄は唐へ渡り、天台宗を学んで帰国しました。比叡山に延暦寺を建立し、厳しい修行を通じて多くの高僧を育てました。また、大乘仏教の戒律を授けるための「大乘戒壇」の建立を目指しました。